ATAC活動を振り返って

ATAC15年の歩みは、多くの関係者やクライアントの皆様のご協力を得て、ATAC会員自身が幾多の問題を克服して自ら道を開き今日に至っています。歩んできた道は別項の年表に記述のとおりですが、記憶に残る数々の出来事や活動を振り返ってみました。

1. 企業コンサルティングのエピソード

ATACの発足当時は、大企業OBの集団が中小企業のさまざまな課題解決にとまどうことも多々ありましたが、「中小企業の課題解決に生甲斐を感じて全力を尽くそう」というATAC精神がいち早く根付いてきました。

そのころ、阪神・淡路大震災が起こりATACメンバーも住宅被害をはじめ、思わぬ災害を被りました。その上、交通機関が寸断され企業訪問も容易ではない事態が起こり、早く来て欲しいという企業のご要望に十分応えることができない事態に遭ったのです。それでも企業の課題解決が何より大事と、一時安全な仮住まいやホテルにパソコンと必要資料を持って避難し企業にご迷惑を掛けなかった数名の活動は、ATAC精神をより強固にするきっかけとなりました。

ATACは当初京阪神地区から活動を始め、メンバー個人の情報ネットワークでクライアントの拡大を図ってきました。その結果、契約企業は北海道から沖縄まで全国に展開するに至りました。最近、石垣島特産の「もずく」をATAC技術による特殊加工で処理し、北海道で支援した製麺技術を使って北海道で「もずく麺」を生産するという、日本国土の両先端にある企業を最先端技術で結合する画期的な事業創出を試みているのです。その製品はATAC15周年記念行事への参加者にお渡しできる段階に成長しました。この成果はATACの多彩な技術力と何が何でも中小企業の発展に寄与したいというATACメンバーの執念の賜物と自負しています。

2. 時流に即したATAC活動

ATACの活動は中堅・中小企業へのコンサルティングが主体ですが、その時々の企業の持つ全般的な課題に対しても、調査・講演・研究などさまざまな活動を行ってきました。これは、ATACがコンサルティングの中で「時代の変化にすばやく対応しよう」という企業への主張を自らも実践している結果です。その中の主要な例は次の通りです。

(1) 中堅・中小企業の防災ガイドライン作成

阪神・淡路大震災の直後には、いち早く中堅・中小企業の地震防災マニュアルのためのガイドラインを作成し各企業の防災体制と危機管理の整備に役立てました。ATACのクライアントを中心に各社の災害危機管理の実態を調査し、具体的なアドバイスを行うのに役立っています。

(2) NASCAとベンチャー教育支援

近年、企業が新事業開発のために大学の研究成果を利用したいというニーズが高まってきました。一方大学発ベンチャービジネスとして、大学での研究成果をビジネスとして実用化しようという活動が盛んになり、ATACはこれを支援するための各種活動を実施しています。

その主な活動は下記の通りです。

1）NASCA（Needs And Seeds Coordination Activity）

ATACが企業のニーズをお預かりして、シーズを持つ大学や研究機関などを紹介するシステムとしてATAC10周年記念事業としてスタートしています。

2）ベンチャー教育支援

ATACメンバーの経験をベンチャー起業のためのアントレプレナー教育に生かす活動も行っています。

①大阪大学工学研究科の西川雅弘教授の研究室の大学院生を主対象に「NEOS」(Nishikawa Entrepreneur Open School) を開講し、ベンチャー起業のための講義と数グループで特許出願と実用化を目指した研究開発を指導しました（1997 年～2002年）。成果の一つは、新しい超音波センサーの開発で、企業での実用化に成功しました。

②立命館大学の経営学部、理工学部などの学生を対象にした「産学協同アントレプレナー教育プログラム」の中の「技術系ベンチャー論」および「製品事業化システム論」のコースではATACメンバーが各15回の講義を分担し、各人の経験に基づいた開発・事業化のノウハウと心構えを教授しています（2006年）。

(3) 社長懇話会

ATACは多くの中堅・中小企業の社長・経営者の方々の個性あふれた経営理念や考え方をお互いに語り合える場があれば、経営の舵取りにさらに深みを増すものと考え、社長懇話会を2003年から既に8回実施しています。これは工場見学の後、社長のお話を聞き、社長を囲む懇話会を実施するATACならではの企画で、参加された各社長・経営者がその後も交流を重ね、お互いの業績向上に役立てるなど思わぬ成果も上がっています。

(4) 試験研究機関ネットワーク作りのための調査

つくば市と並ぶ試験研究機関の集積地である尼崎市の活性化の一環として、尼崎市のみでなく、もう少し広くということで兵庫県阪神南県民局からの委託を受けて阪神南地区の試験研究機関のネットワーク作りのための調査を委託され、支援しました。第1次の調査では基礎調査として尼崎市120社、西宮市54社 の企業概要を調査し、データベースを構築しました。

第2次調査では、この中から尼崎市69社、西宮市20社を選んでATACメンバーが直接訪問し、保有試験研究設備やネットワーク構築に対するお考えをヒヤリングしました。この調査結果の一部は財団法人尼崎市地域・産業活性化機構のホームページに掲載されています。これらの調査結果は今後試験研究機関の連携による試験設備の相互利用や共同研究開発へと発展して行くものと期待しています。

(5) 団塊の世代に関する2007年問題への対応

団塊の世代が大量に定年退職を迎える2007年問題は大きな社会問題となっていますが、ATACは大企業OBのスキルを中小企業の発展に活用する事に強い関心をもっています。そのため、長年の中小企業とのお付き合いで得た知識を基に、中小企業が大企業OBのスキルを利用する方法、および大企業OBが中小企業に溶け込んで能力を活かす心得等について、講演とパネルディスカッションを含めたセミナーを開催しました。いずれも盛況で企業側・大企業側双方の関心が非常に高いことが分かったので、今後も種々の面でこの問題に協力したいと考えています。なお、併行してATACメンバーが66社の中小企業を訪問し、受け入れ側のご意見や経験談をヒヤリングして回り、貴重な情報を得ました。その結果はデータベースとして、セミナーの概要と共に報告書にまとめ、参考にしていただいています。

以上ATACの活動の一端を述べましたが、今後とも企業コンサルティングはもちろんのこと、調査活動、大学ベンチャー教育支援活動、企業トップ啓蒙活動等にもさらに挑戦して行きたいと考えていますので、ご活用いただければ幸いです。

（田頭・池田記）